



一緒に市民広場の未来を語りませんか？

F C

菊池市民広場ファンクラブ



▼12月3日 第2回講演会
市のシンボルである「桜」に焦点を当て、樹木医の今村能子さんを招き講演会を開催しました。市民広場の中で桜の存在はとても重要であること、みんなで桜を育てていくことで市民広場への愛着を育むことの大切さを学びました。

▼10月22日 第1回講演会
日本一のコンパクトシティといわれる富山市グランドプラザで都心のにぎわい創出に携わり、現在久留米市で活躍中の山下裕子さんを招き、講演会を開催しました。山下さんは、まちに元気を生み出す拠点となる「まちなか広場」の可能性について講話。参加者からは「行けば誰かに会える場所にした」「無理だと思っても声に出してチャレンジする」などの声がありました。

活動内容

▼ワークショップ

講演の後は毎回ワークショップを開催しています。「市民広場で何をしたいか」というテーマで高校生、大学生、区長、商店街、商工会、温泉旅館など、立場の違う人々が一堂に会し、意見を出し合いました。参加者からは「いろいろな世代の人と多様なアイデアを出し合うことができた」「違う視点で市民広場の良さを確認できた」などの感想がありました。

ファンクラブに入りませんか

これからの講演会やワークショップなどの活動を開催しながら、より多くの市民の皆さんと一緒に、市民広場とまちの未来を考えていきたいと思っています。

興味がある人は企画振興課まで気軽にご連絡ください。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

菊池市民広場FC（ファンクラブ）とは、市民広場が拠点となり、まちなかにぎわいを生み出す場所となるよう、市民、行政、熊本大学で有効な活用方法などを検討するために設立したクラブです。

市民広場とまちの未来をみんなで考えていきます。

問い合わせ先 企画振興課企画係 ☎0968(25)7250

第11回 夫婦の手紙・絵手紙コンクール表彰式

いい夫婦の日に感謝の手紙

「第11回夫婦の手紙・絵手紙コンクール」の表彰式が11月22日（いい夫婦の日）、菊池夢美術館で行われました。このコンクールは、本市のイメージづくりの一環として平成17年にスタート。今回は全国各地から手紙の部に87点、絵手紙の部に295点の応募がありました。

表彰式では、18人の受賞者に賞状と副賞が手渡されました。受賞者を代表して夫婦の手紙最優秀賞の樋口昭彦さん（八代市）が、妻に宛てた手紙を朗読。会場からは大きな拍手が送られました。

表彰式終了後、受賞者は菊池市民広場で開催された「ほの宵まつり」にも参加。竹灯笼で彩られた幻想的な菊池の夜を満喫していました。

今回応募された全作品は、1月17日（日）まで菊池夢美術館に展示しています。ぜひご覧ください。



夫婦の絵手紙最優秀賞作品
向井喜八さん（鳥取県）



最優秀賞を受賞した樋口昭彦さん夫婦。
木村副市長から賞状と目録が贈られました

夫婦の手紙 最優秀賞作品

樋口昭彦さん

認	う	と	に	あ	増	左	乗	て	夕	ね	ッ	が	次	「	「	「
し	に	が	天	あ	え	か	し	あ	オ	ん	ば	男	男	ひ	な	な
た	に	で	国	な	る	ら	む	い	オ	ね	あ	夫	夫	な	な	あ
い	孫	ま	へ	た	喜	命	こ	す	ケ	し	ば	婦	婦	ち	ち	は
の	の	結	立	が	び	の	と	と	ツ	て	ね	が	が	ん	ん	は
で	婚	した	ち	五	年	の	つ	会	心	ト	ね	を	預	け	は	が
す	を	私	ま	間	奇	の	な	え	か	を	ね	始	て	い	い	赤
ね	見	届	た	介	跡	時	が	た	癒	け	の	め	い	い	マ	ん
奇	け	ち	が	護	か	間	を	で	か	さ	時	ま	た	う	に	し
跡	を	も	ひ	く	始	を	共	に	で	れ	胸	し	二	と	な	る
を	命	母	に	孫	れ	を	有	感	こ	を	す	の	人	の	け	ん
信	の	に	負	に	た	か	で	じ	ん	ト	は	孫	の	娘	と	あ
じて	つ	に	け	会	母	が	い	ま	ん	ン	い	娘	と	あ	な	た
て	な	が	け	わ	が	い	ま	す	の	ン	こ	と	あ	な	た	た
	が	り	な	せ	四	月	は	存	を	さ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
	り	を	い	よ												
	確															